



まちでの子どもたちの育ちを軸にする 「まちのシェア」の形 —まち保育という発想とその先—

横浜市立大学国際総合科学部都市学系・准教授
日本学術会議・連携会員 三輪律江

【首都圏】
<子どものあした> まち保育で街も豊かに 横浜市立大・三輪教授ら本出版

2017年7月23日

乳幼児の子どもが、地域で見守られながら育ちつづけていくことを目指す「まち保育のススメ」をおさんぼ・多世代交流・地域交流・防災・まちづくりを、横浜市立大学の三輪律江（りつゑ）准教授（48）らが出版した。保育施設の開業活動や住居に向けた施設開設の機会を通じて、地域で子どもを育てるノウハウを紹介している。（実野実）



建築・都市計画の専門家の三輪さんは、乳幼児の子どもが、地域資源を活用して、街と一緒に育つための戦法を「まち保育」と称す。二〇〇七年ごろから、横浜市内の保育施設の開業調査を続けてきた。

本は、子育て支援や建築計画、環境工学、防災などの専門家が中心となり、乳幼児の保育が「地域」から「街」へと広がる。保育施設など「公」の施設で行うものだけでなく、民間の「まち保育」の実践例として、保育施設の「おさんぼ」を、施設と公園との連携による自然や地域目と繋がることで、施設と地域がつながっていくこととなる。子どもを元気に育てるためのまちづくりのヒントが満載である。

三輪さんは、子育て支援が「連鎖施設」とされる社会に対し、「保育施設があるから、街が豊かになるという発想の転換」とを説き、「まち保育のススメ」と題する。子育て支援が「連鎖施設」と題する。子育て支援が「連鎖施設」と題する。

A4判変型、百二十六ページ、二千六百六十円（税別）、購読申込は株式会社電通332219008へ。
東京新聞 2017年7月23日

保育Lab

HOME > 遊び・わかる > ブックレビュー > ブックレビューをすべて見る >

089 まち保育のススメ

20170616 8:45 三輪律江 著 20170616 10:14 販売しました

三輪律江、尾木まり編
 朝文社
 2017年

No Image

今年、5月5日のこどもの日に刊行されたばかりの本です。私は、今年3月、こども環境学会関東の主催する、こども環境研究会関東セミナーでの「まち保育」というワードを知り、この本が発行されるのを心待ちにしていました。

本書では、「まち保育」を「まちにあるさまざまな資源を保育に活用し、まちでの出会いをどんどんつないで関係性を広げていくこと。そして、子どもを囲い込み、場や機会を築き、地域社会と一緒に育て、まちでも子どもが育っていく土壌づくりをすること」と説明しています。決して保育施設以外の場所での園外活動のみを指すのではなく、子どもをまちをつくることからも出版

地理学評論 Vol. 91, No. 3 2018年5月

●一論 説
 ケニア山における氷河縮小と水環境の変化が地域住民に与える影響 大谷尚也・211-228

住民による地域のサウンドスケープの発見と活用
 ——長野県松川村におけるスズムシを活用した地域づくりを事例に—— 坂本優紀・229-248

街区および近隣スクールにおける犯罪発生環境要因
 ——東京都杉並区の空き巣を対象としたマルチレベル分析—— 上杉昌世・榎野公宏・249-266

●一書 評
 三輪律江・尾木まり編：まち保育のススメ
 ——おさんぼ・多世代交流・地域交流・防災・まちづくり——（成瀬 厚）・267-268

秋山元秀・小野有五・熊谷圭哉・中村泰三・中山修一編：

地域で見守る 保育のススメ
 市大准教授ら本出版

保育施設と公園を連携させ、自然や地域目と繋がることで、施設と地域がつながっていくこととなる。子どもを元気に育てるためのまちづくりのヒントが満載である。

神奈川新聞

顔見える関係を 保育所トラブル解決へ

まち歩き住民と交流 市大准教授 取り組み

保育所トラブル解決へ

顔見える関係を

まちを散歩することで、子どもたちはたくさん発見をしています。

園があるから町も元気になる！

まちを散歩することで、子どもたちはたくさん発見をしています。

まち保育のススメ

三輪律江さん

まちを散歩することで、子どもたちはたくさん発見をしています。

クレヨンハウス『クーヨン6月号』2017年6月（抜粋）

現代版「群れ子育て」 「まち保育」をつくらう

子育てを元気にすることば

現代版「群れ子育て」 「まち保育」をつくらう

子育てを元気にすることば

仙田満『子どもを育む環境蝕む環境』朝日新聞出版2018年4月25日（抜粋）

子育てを元気にすることば

現代版「群れ子育て」 「まち保育」をつくらう

大豆生田啓友『子育てを元気にすることば』エイデル研究所 2017年6月（抜粋）

子育て家庭に対する多様な支援と“場”

— 子育て支援は私的領域から公的領域で行う時代へ —

就学前の子どもたちが集積する場の多様化・複雑化

		0歳	1歳	2歳	3歳	4歳	5歳	6歳	
親子で一緒に過ごす場	子育て支援事業	● 地域子育て支援拠点							
		● 一時預かり事業 ● ファミリー・サポート・センター ¹²⁾							
子どもだけで過ごす場	教育・保育施設等	● 保育所 ● 認定こども園							
		● 地域型保育事業（家庭的保育・小規模保育事業所内保育・居宅訪問型保育）			● 幼稚園 ● 預かり保育				
	その他 (認可外)	● 地方自治体独自の規準による保育施設（東京都認証保育所、横浜市横浜保育室など） ● 企業主導型保育事業 ● その他の認可外保育施設							

図3. 就学前の子どもの居場所

家族の変容(核家族化、夫婦共働き等)に伴い 「地域社会で群れる子育て」(vs子育て)をどう捉えるか

1. 男女の役割を分担推進する住宅地開発から、
男女が共に働き群れた子育てをするために必要な居住政策
2. 子ども達だけで集団で過ごすという場の多様化とつくり込み
 - ・遊び相手が見つけれない、他者とふれあう機会が減っている子ども達にとっては、そのような設え(例:単目的施設から複合目的施設)の必要性が高まる。
 - ・限られた地域資源の中で施設とその環境を、誰がどのように 企画、管理、活用していくかといった地域での『エリアマネジメント』の観点に、子どもの主体性の構築も必要。→「空き家」「空きビル」「空き教室」「公園」「道」「公開空地」等のシェア
3. 子どもの育ちを軸に、個人—家庭—地域—仕事のバランスがとれた「生活者」でいられるまちづくり
→住む—働く—暮らす—福祉の場の想定

「**まち保育**」は、子どもたちの生活をより豊かにするものです。

それは、保育施設・教育施設の園外活動だけを指すではありません。

まちにあるさまざまな資源を保育に活用し、

まちでの出会いをどんどんつないで

関係性を広げていくこと、

そして、子どもを囲い込まず、

場や機会を開き、

身近な地域社会と一緒に、

まちで子どもが育っていく土壌づくりをすることを

私たちは「**まち保育**」と呼んでいます。

子育て支援の場においても、

家庭生活においても、

また地域の活動においても、

「**子どもがまちで育つ**」視点を

大切にしてほしいと考えています。

「保育」

乳幼児を適切な環境のもとで健康・安全で安定感をもって活動できるように**養護**するとともに、その心身を健全に発達するように**教育**すること

出典：

『まち保育のススメ

ーおさんぽ・多世代交流

・地域交流・防災・まちづくり』

2017年5月5日発行（萌文社）より

子どもの成長に伴う

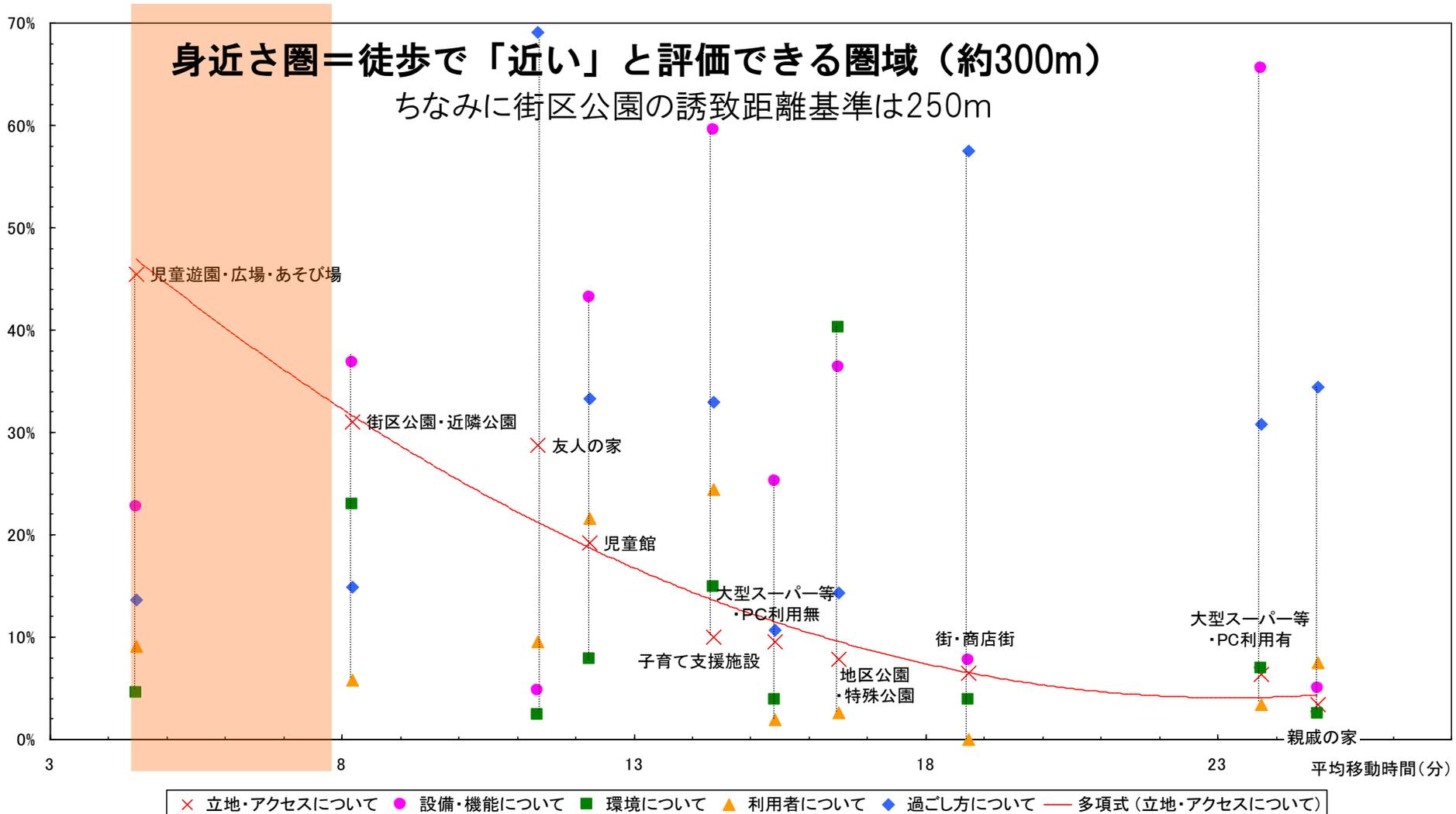
まちのシェアの実態(乳幼児生活圏)

親子で出かける際の選択基準 ベスト10

	全体	%	1歳半未満	%	1歳半以上	%
1位	家から近い	31.5	おむつ交換、横になるスペース	50.0	家から近い	33.1
2位	おむつ交換、横になるスペース	27.3	家から近い	29.4	同年代の子どもが多い	25.0
3位	子どもの大声が気にならない	21.4	子どもの大声が気にならない	22.5	無料で利用	23.5
4位	清潔	20.2	清潔	19.6	清潔	20.6
5位	同年代の子どもが多い		親も子どもも一緒に楽しめる		子どもの大声が気にならない	
6位	親も子どもも一緒に楽しめる	19.3	同じ育児中の人がいる	13.7	幼児用遊具の充実	19.1
7位	無料で利用	18.5	同年代の子どもが多い		親も子どもも一緒に楽しめる	
8位	幼児用遊具の充実	14.3	無料で利用	11.8	トイレや水飲み場などの整備	15.4
9位	トイレや水飲み場などの整備	13.9	トイレや水飲み場などの整備		子どもが自分で遊べる	13.2
10位	動物や植物と触れ合うことができる	10.5	自分たちのペースで過ごせる	8.8	動物や植物と触れ合うことができる	12.5

色凡例
設備・機能
環境
立地・アクセス
利用形態
利用者
過ごし方

よく行く場所までの平均移動時間と その場所の選択基準(評価)の関係



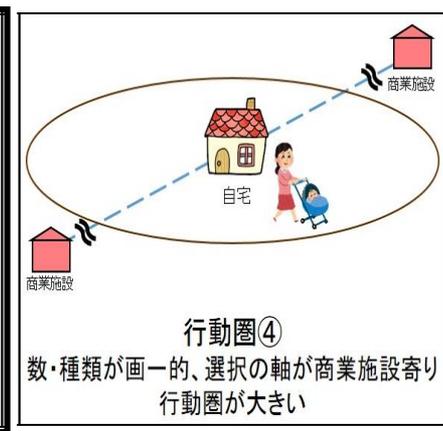
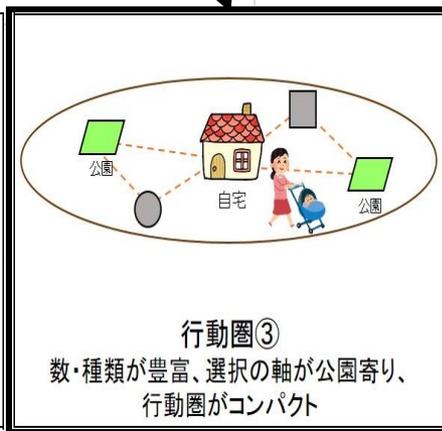
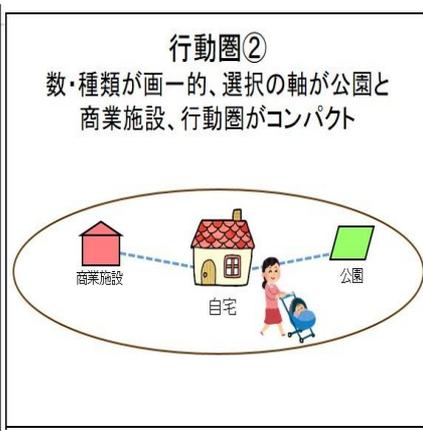
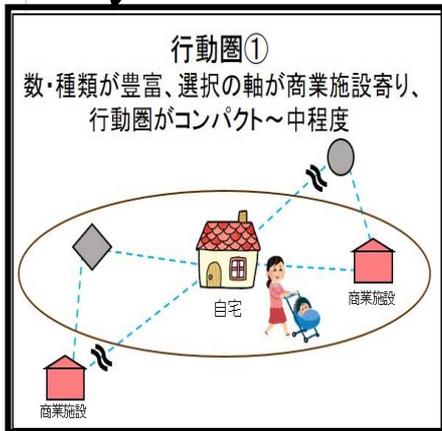
子どもの成長と行動圏類型の関係

(カイニ乗検定1%有意差あり)



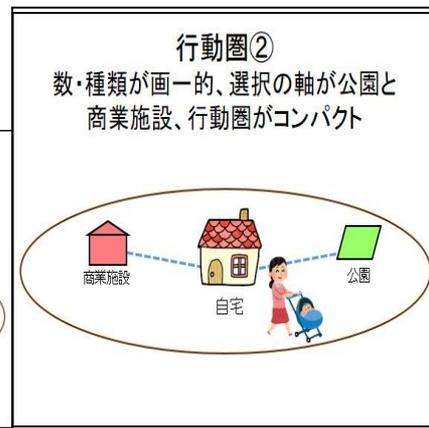
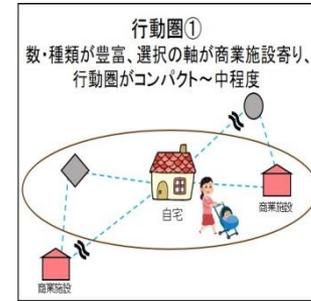
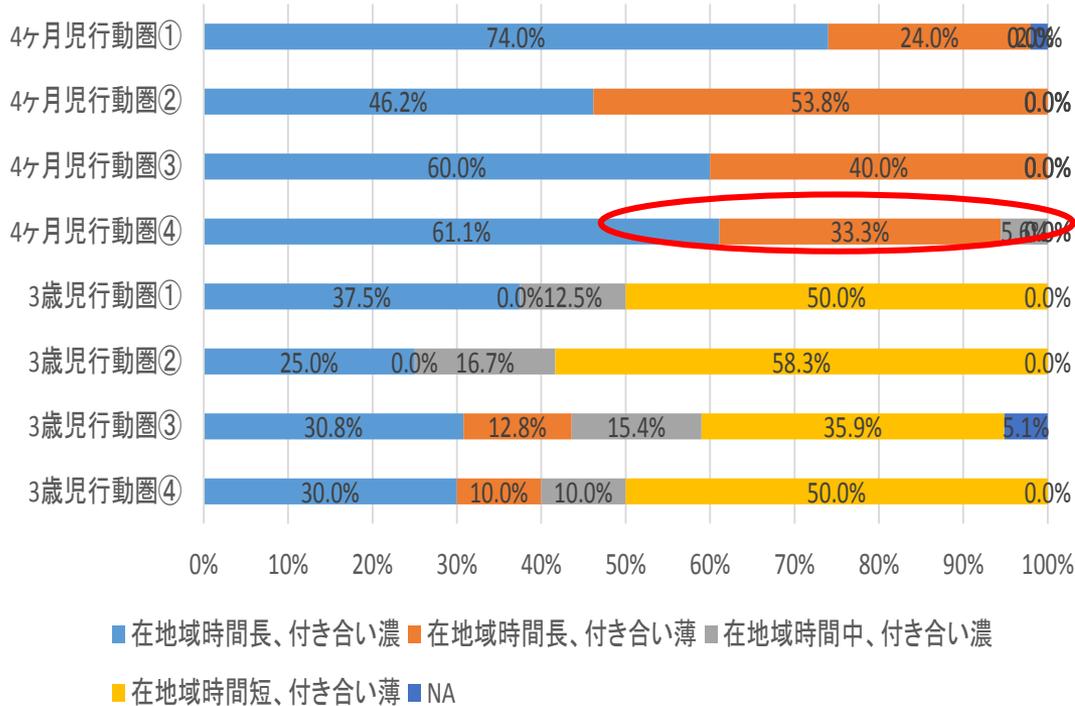
- 行動圏①数・種類が豊富、選択の軸が商業施設寄り、行動圏がコンパクト～中程度
- 行動圏②数・種類が画一的、選択の軸は公園と商業施設、行動圏がコンパクト
- 行動圏③数・種類が豊富、選択の軸が公園寄り、行動圏がコンパクト
- 行動圏④数・種類が若干画一的、選択の軸が商業施設寄り、行動圏が大きい

4ヶ月児は「**行動圏①**：数・種類が豊富、選択の軸が商業施設寄り、行動圏はコンパクト～中程度（58.1%）」、
 3歳児は「**行動圏③**：数・種類が豊富、選択の軸が公園寄り、行動圏がコンパクト（56.5%）」の割合が多いという年齢による特徴。



行動圏類型と地域へのコミットメントとの関係

(カイニ乗検定1%有意差あり)



4ヶ月児において

「行動圏②：数・種類が画一的、選択の軸は公園と商業施設、行動圏がコンパクト」

の親子が他と比べて、

「在地域時間が長く、近隣地域との付き合いが薄い（53.8%）」

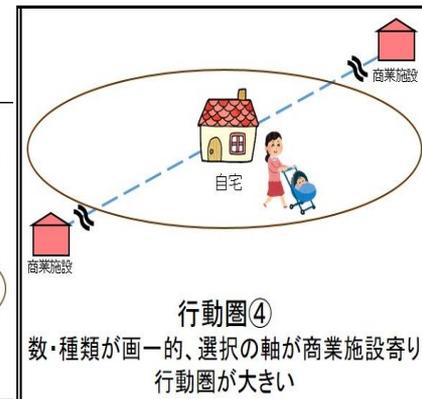
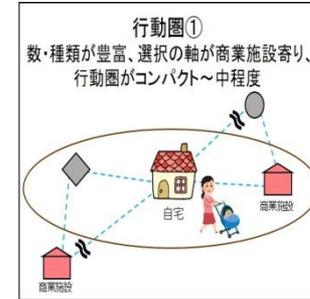
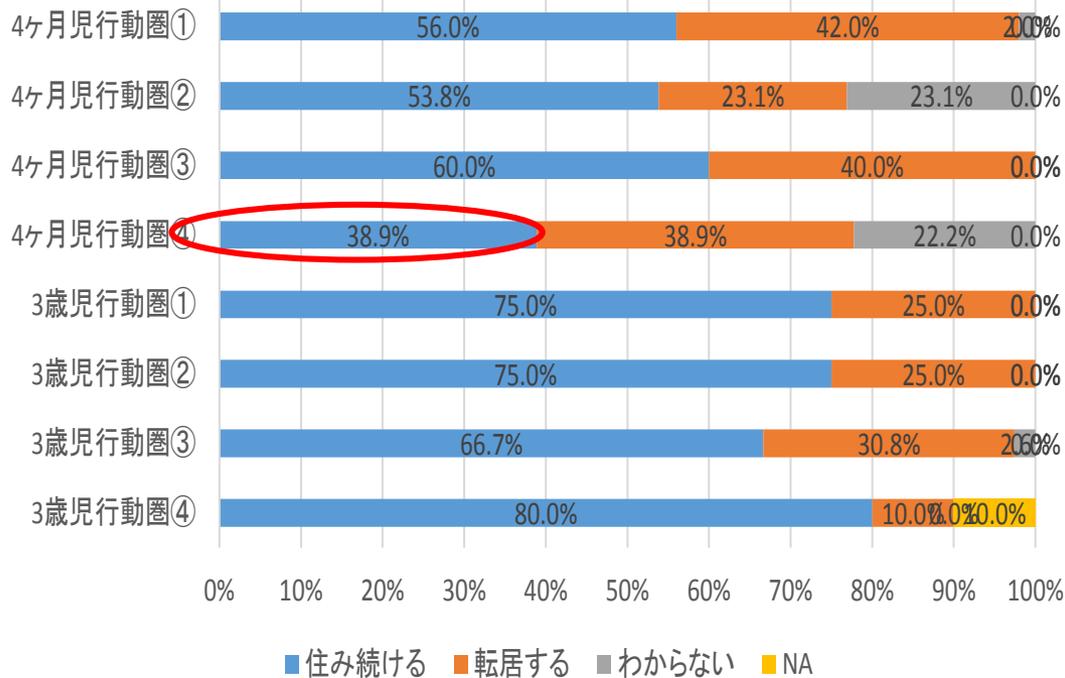
の割合が高かった。

「近くの行ける範囲にある公園や商業施設のみに行っている人」
は、

「在地域時間が長いにも関わらず、近所づきあいが薄い」傾向

行動圏類型と定住志向との関係

(カイニ乗検定1%有意差あり)



4ヶ月児において
「行動圏④：数・種類が画一的、
選択の軸が商業施設寄り、
行動圏が大きい」
の親子が他と比べて、
「住み続ける (38.9%)」
の割合が低かった。

注) 定住志向は「住み続ける」「転居する」「わからない」の3項目で分析を行った。

「よく行く場所の数・種類が画一的で行動圏が大きい人」は
「定住志向が低い」傾向

子どもの場や人の繋がりの“選択肢”を増やすことの重要性

—多様な遊び・多様な遊び場所を持っている子どもほど幸福感が高い

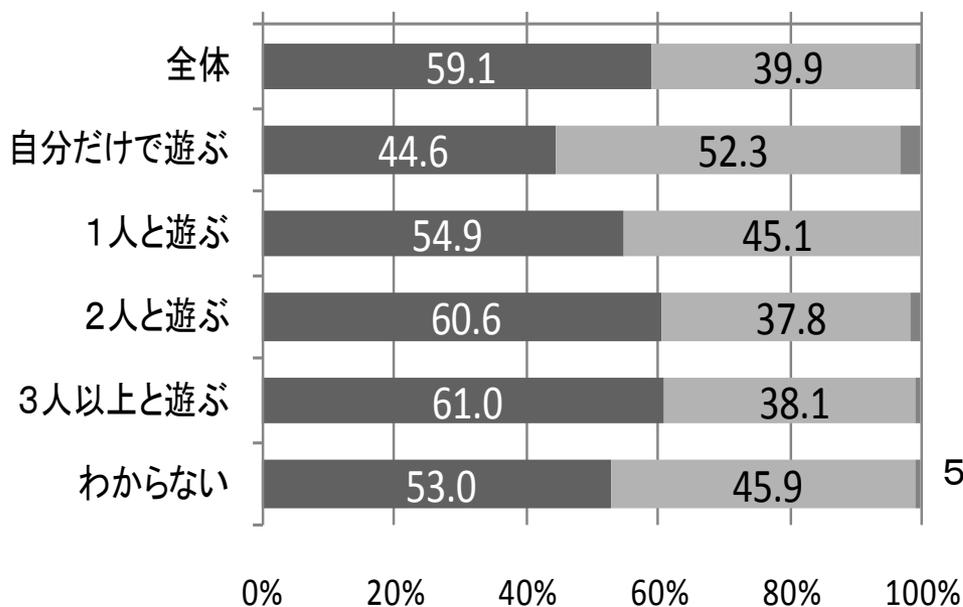


図 一緒に遊ぶ人数別幸福感
($p < 0.5$)

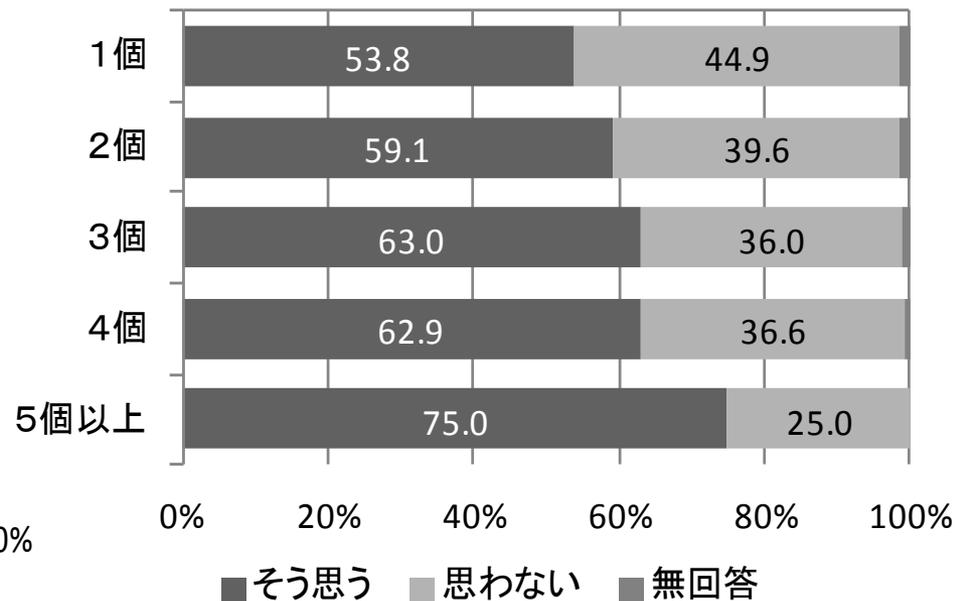


図 遊ぶ場所の選択数別幸福感
($p < 0.1$)

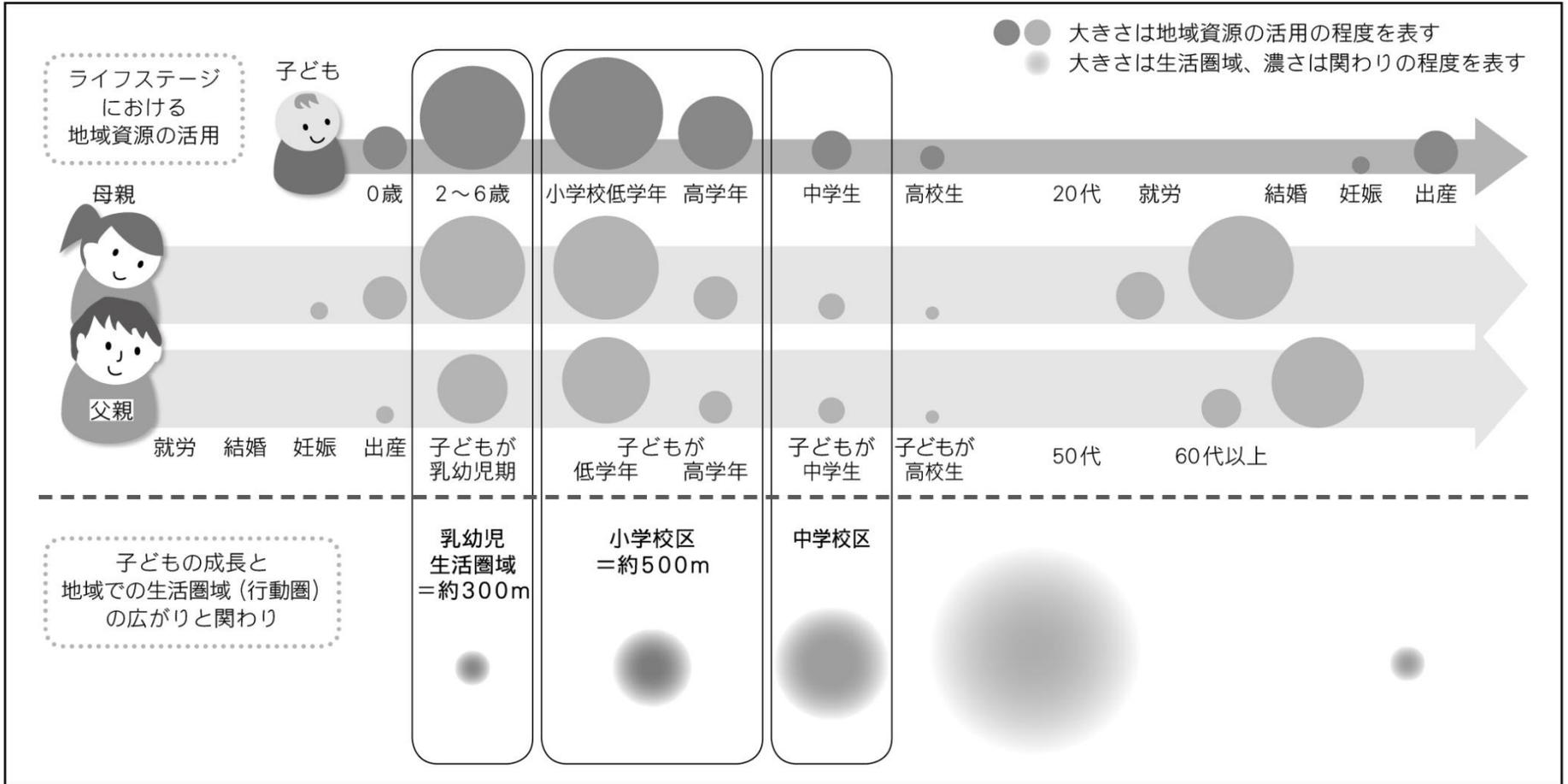


図3. 子どもの成長と地域との関係

出典：『まち保育のスプーマーおさんぽ・多世代交流・地域交流・防災・まちづくり』
2017年5月5日発刊（萌文社）より

子どもの育ちに欠かせない
まちのシェア

保育の実現のための「地域に出向く」「地域から来る」の関係も施設の状況により多様

Relationships among a day nursery and local facilities/communities are different in each building or facility type of day nursery.

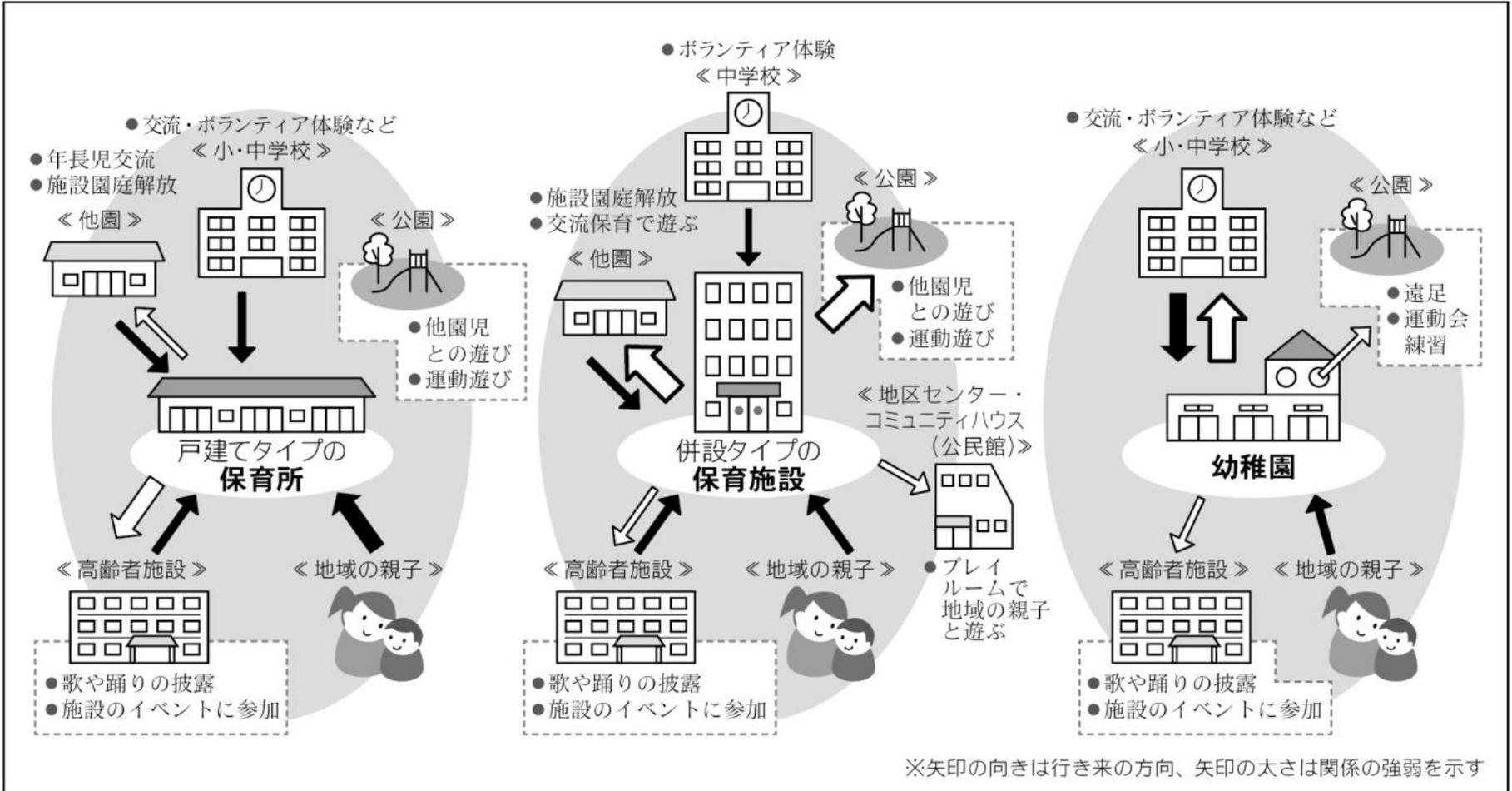


Fig.2 Three kinds of relationships among a day nursery and the other local facilities and communities.

出典：『まち保育のススmerおさんぽ・多世代交流・地域交流・防災・まちづくり』2017年5月5日発行（萌文社）より

保育施設の園外活動に着目すると見えてきたこと

Characteristics of Daily Outdoor Activity

園庭の無い保育施設は、ほぼ毎日園外活動を行っている。

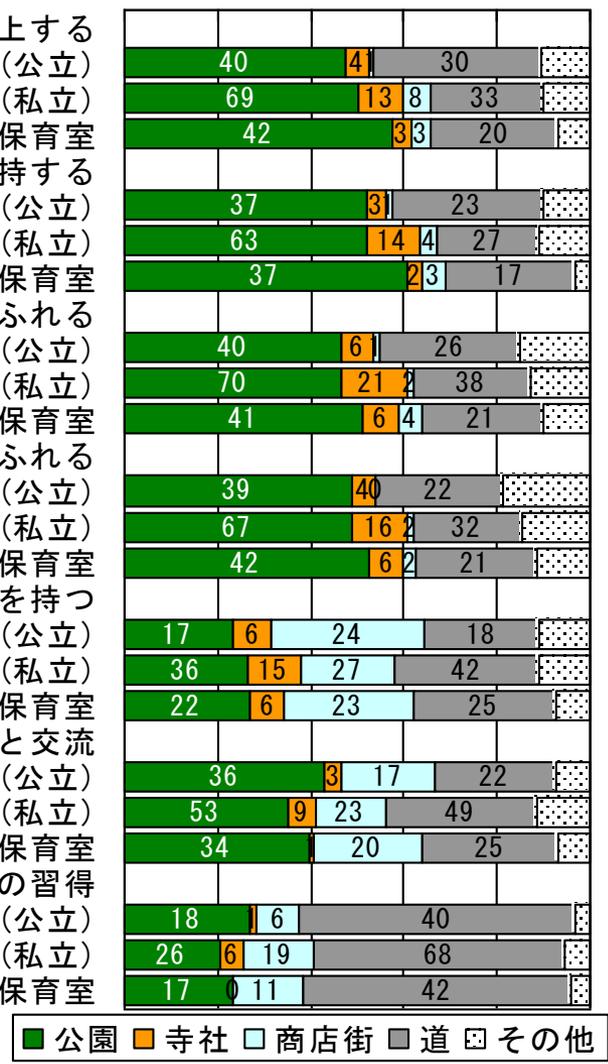
その目的は多様で目的地への単なる移動とは限らない。

Most day nurseries which have not their own play ground go for a walk everyday as daily outdoor activity.

Moreover, the purposes of daily outdoor activities are various and not only moving to a destination such as park.

- 1) 体力増進や運動能力を向上する
- 2) 健康を保持する
- 3) 自然にふれる
- 4) 生き物にふれる
- 5) 身近な施設・生活に関心を持つ
- 6) 地域の人々と交流
- 7) 交通ルール等安全知識の習得

0% 20% 40% 60% 80% 100%

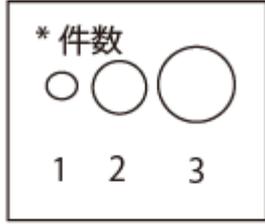


2007年度横浜市でのアンケート実態調査より

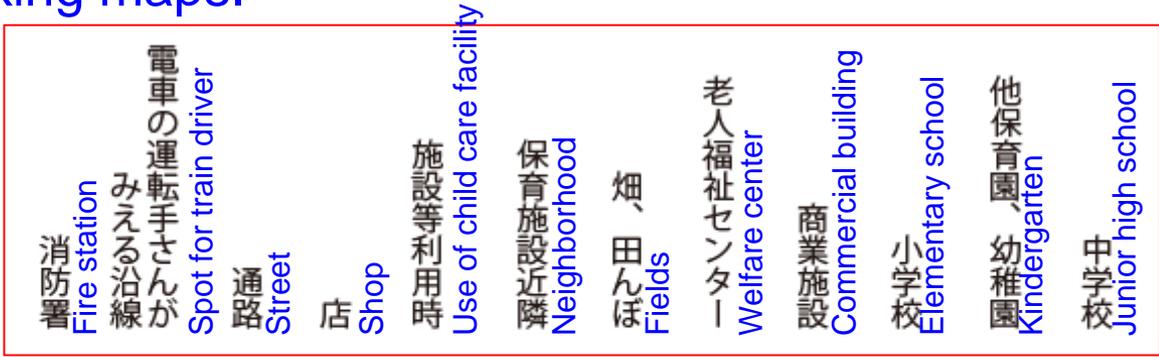
Fig. 1 Purposes and places for daily outdoor activities of day nurseries.

お散歩マップからみる地域活用の様子

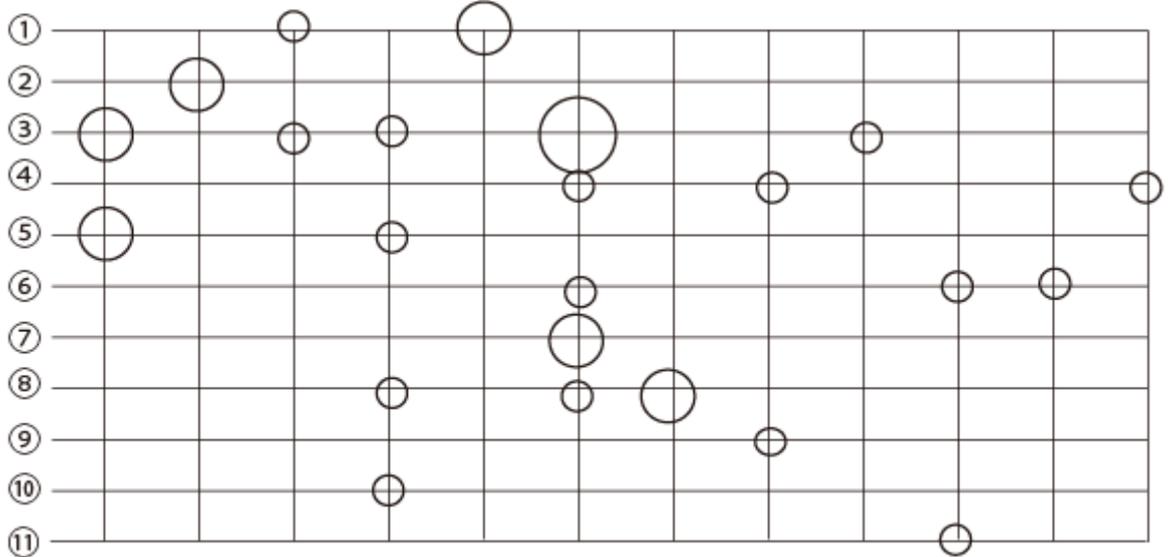
Regional activities seen in walking maps.



それぞれの場所での
交流コメントがあった施設数



- ① 配慮する Consideration
- ② 手を振る、ふってくれる 応えてくれる
- ③ 声をかける、かけてくれる・挨拶する
Greeting
- ④ 一緒に遊ぶ、使う Play together
- ⑤ 乗せてくれる Riding
- ⑥ 交流 Exchanging
- ⑦ 会うのを楽しみにしてくれている
- ⑧ 見せてくれたりものをもらう
Being given somethings
- ⑨ イベントに参加 Join in event
- ⑩ 買う Buying
- ⑪ エサを上げる Feeding



2007年度横浜市でのアンケート実態調査より

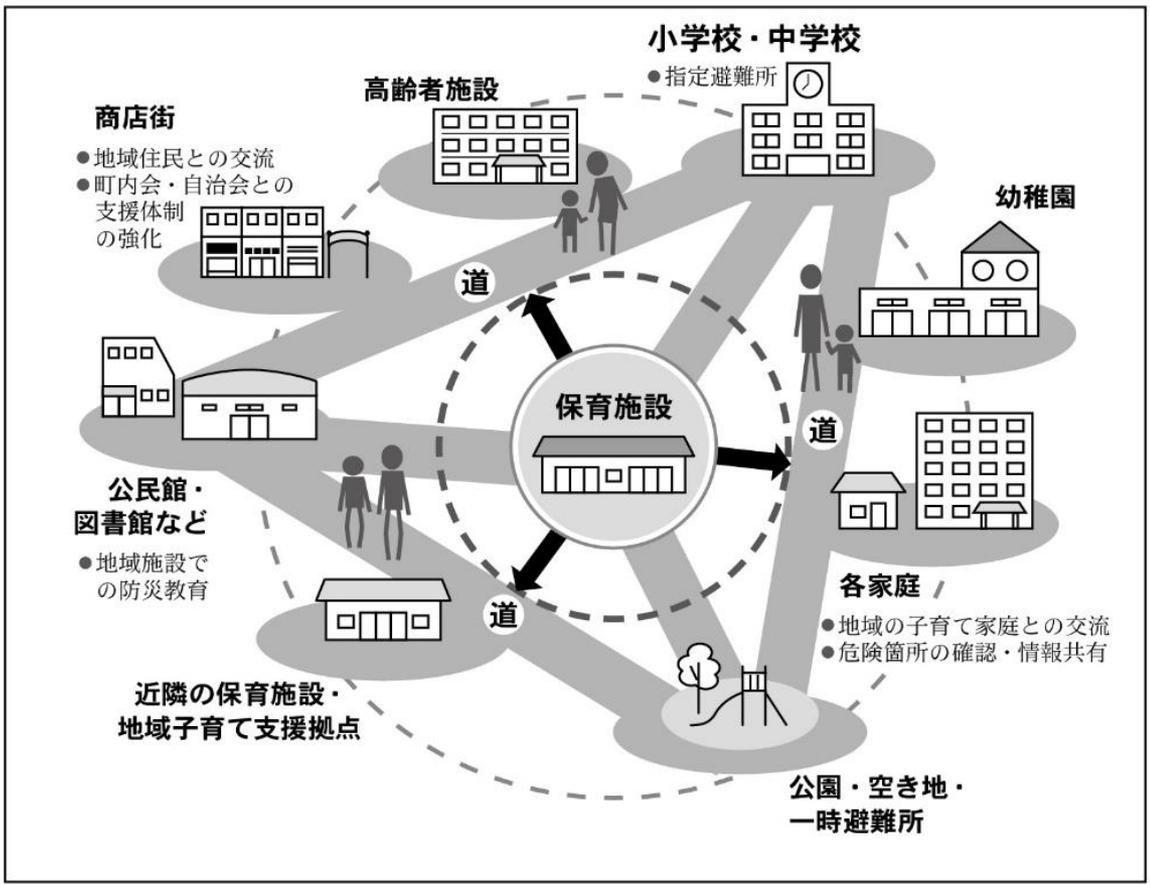
Fig.3 Numbers of regional activities according to human/facilities resources.

地図分析から様々な人やモノ、コトをフル活用している実態が明らかになった。

Map analysis showed day nurseries utilize various people, facilities and events in neighborhood.

保育施設が小さな生活圏の地域とつながる……

A day nursery is connected with small local community in town.



出典：『まち保育のススめーおさんぽ・多世代交流・地域交流・防災・まちづくり』
2017年5月5日発刊（萌文社）より

Fig.4 Infantile life zone model centering on childcare facilities.

繋がるきっかけにお散歩を、その仲介ツールにお散歩マップを!

Take a walk to meet local community, and utilize a walking map to connect with local community.

キッズカメラマンワークショップ Workshop for finding by kids photographer



関係性の広がり Spread of Participants

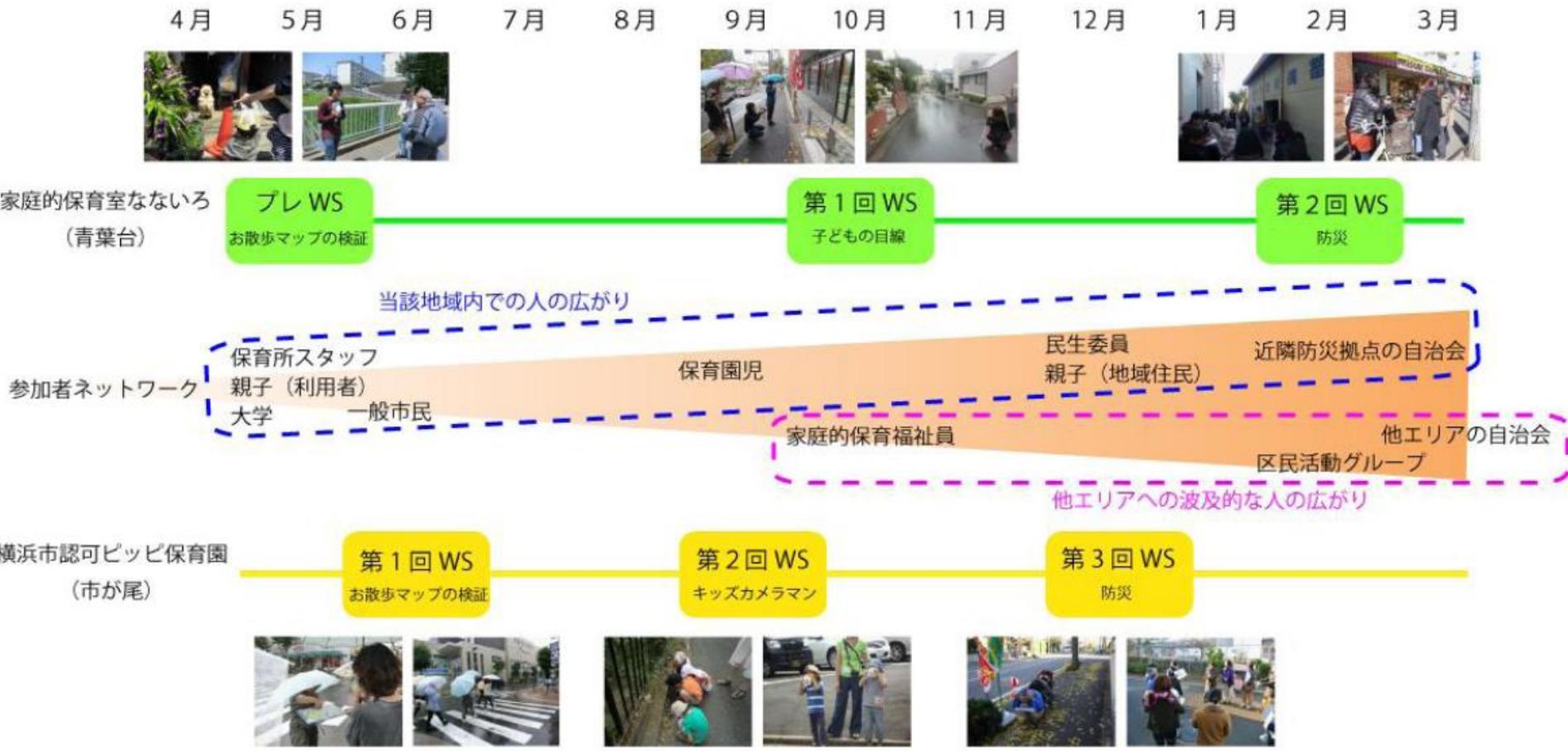
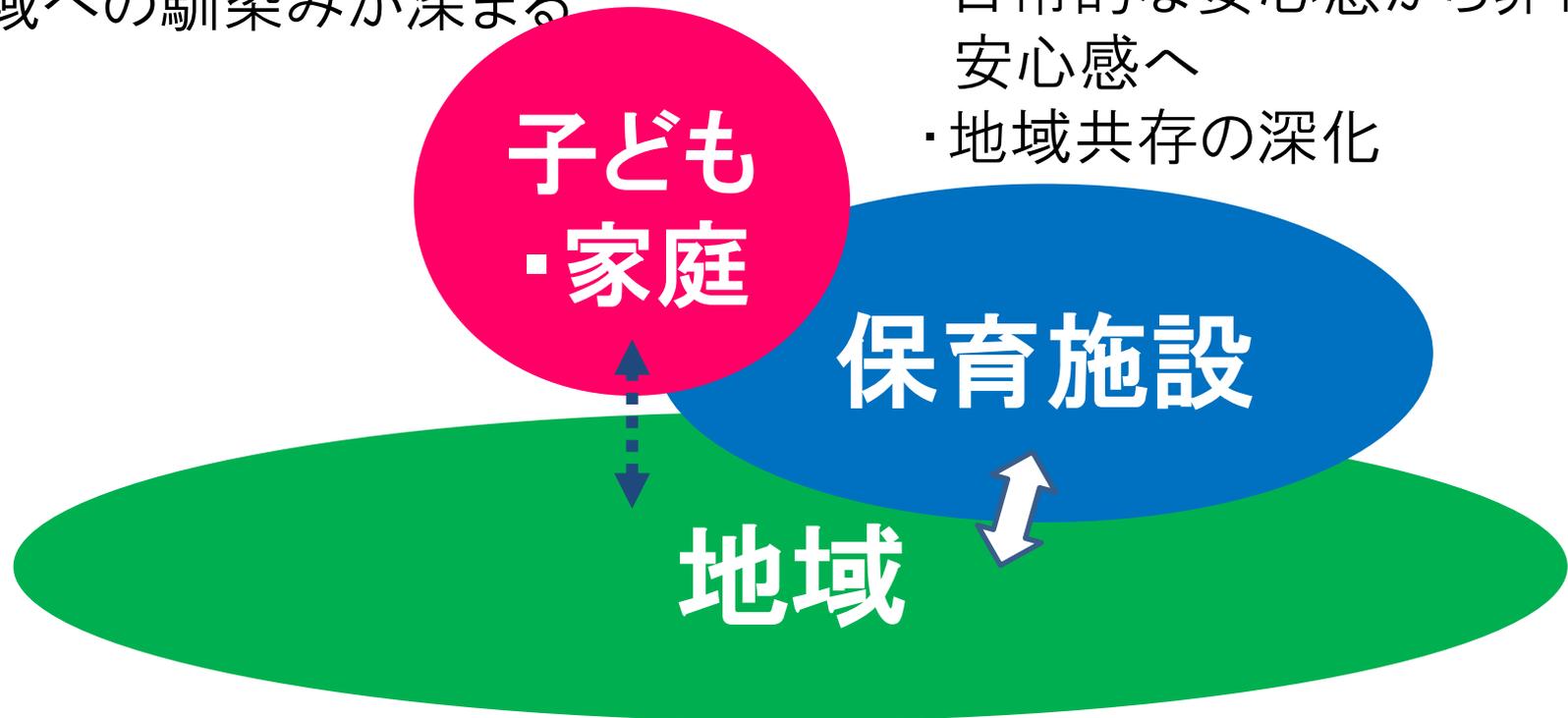


Fig.5 Flow of Map Workshops and Variation of Participants

「保育施設と地域がつながる」と広がった可能性

- ・子どもを通して、家族や同世代でない第三者の知り合いができる
- ・地域への馴染みが深まる

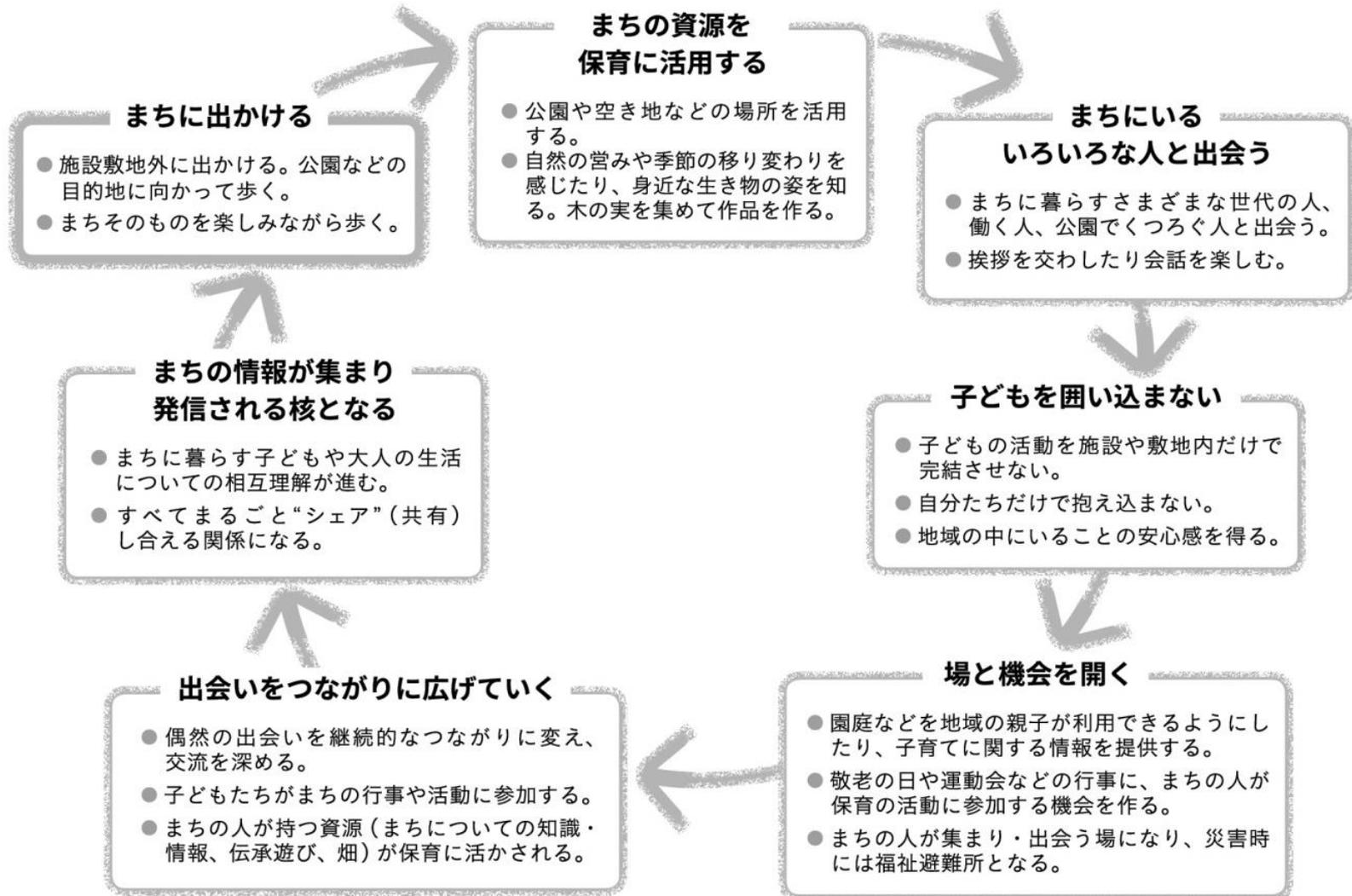
- ・家庭と同様に、子どもが「地域」で育まれていく環境の担保
- ・日常的な安心感から非常時の安心感へ
- ・地域共存の深化



- ・地域に住む子育て家庭との接点となる
- ・乳幼児期の子ども目線でのまちの再点検・再評価・再整備
⇒「子どもが育てやすいまち」という価値付け

「まち保育」に含まれる様々なまちのシェア事例

Examples of various activities included in “MACHI-HOIKU”.



※まち保育の実践はさまざまな形が考えられます。ここで示しているのはほんの一例です。

出典：『まち保育のススメーおさんぽ・多世代交流・地域交流・防災・まちづくり』

2017年5月5日発刊（萌文社）より

まち保育

Machi-Hoiku develops community wider.

Bringing up children connecting with local community environment.

【Parents】

Ensuring and promoting child development and self-reliance.

【Local community】

stage 1

まちで育てる
地域のモノ・ヒトの活用

●
同じまちでも違った
視点で歩けば見つかる
多様なアイテム

stage 2

まちで育つ
まちのモノ・ヒト・コト
と子どもがつながる

●
いろいろなルートで歩けば
気づく新しい
モノ・ヒト・場所

Growing up with active participation in local community connecting its valuable resources.

【Children / Child care provider】

まち保育
machihoiku

4

つの
ステージ

まちが育てる
住民の「まちの子ども」
への関心を誘発

●
まちの子どもへの関心を持
つ人を育て、
その輪を広げる

まちが育つ
共に暮らすまちへ

●
子どもと共に
地域に浸透していくための
土壌づくり

Developing child-friendly city as resilient city for all.

【Local community】

stage 3

stage 4

【参考事例】

子育てをまちでシェアするための
まち・空間(設え)・人・コトの観点

待機児童対策ではなく“まち”が保育施設を誘致する先手な発想

シャッター街に保育園移転、商売の場から地域の交流拠点へ 佐賀

5/20(土) 10:16配信

佐賀新聞
LIVE



空き店舗が目立っていた商店街に、現在は子どもたちの笑い声が響いている

経済産業省がまとめた「地域商業モデル事例」に取り上げられる

シャッターが目立っていた基山町宮浦の基山モール商店街に、小さな子どもたちが元気よく遊ぶ声が響く。商店街の一角に昨年4月に移転した「ちびはる保育園」の園児たちだ。商売の場から地域の交流拠点へ。全国のモデル例として、経済産業省がまとめた冊子にも取り上げられ、注目が高まっている。



取り組みが掲載されたのは中小企業庁が今年2月に発行した「地域商業自立促進事業モデル事例集」。「少子・高齢化対応」の一つとして紹介されている。

保育に欠かせない地域資源の存在を軸に “あえて”立地する保育施設の存在

神奈川県大磯町認可小規模保育施設「こびとのこや」

地域で育てる森のようちえん <http://kobitonokoya.com>



施設整備における“すき間”と“境界”のデザイン、その価値への理解



写真4. エントランス付近に余剰スペースが確保された施設では、
周囲を気にせずゆっくりとおしゃべりをする母親の姿が見られる



写真5. 施設出入口付近にあるシンボルツリー(桜)を利用した
手作りのウッドベンチには、子どもも大人も自然と集まる

出典：『まち保育のススメーおさんぽ・多世代交流・地域交流・防災・まちづくり』
2017年5月5日発刊（萌文社）より



東京都町田市「しぜんのくに保育園」

<http://toukoukai.org>

地域と保育施設をつなぐコーディネーター的役割の存在

保育園と地域をつなぐコミュニティコーディネーター



まちの保育園ではこども、保護者、保育士と地域をつなぐ存在として「コミュニティコーディネーター」という専任職員を置いています。コミュニティコーディネーターは事務の仕事を受け持ちながら、保育園受付にいて、こども、保育者、保護者との関係を築き、ときに保育のサポートにも入ります。先述の「コミュニティの年輪」の芯を意識して、まずはこどもについて理解を深め、こどもを中心に保育者、保護者の信頼関係を育むために動きます。時には園長、副園長、看護師らとともに、運営の方向性についての話し合いにも加わる重要な存在です。

コミュニティコーディネーターが地域に出ていくときには、地域の歴史や文化的背景を調べ、どのような人が住んでいるか、どのような施設があるかを把握するところから始まります。そして誰がどのような想いで喜んでいるか、どのような時間帯に何をやっているか、地域やこどもへの想いはどうかなどを理解して、活動を組み



まちの保育園 <https://machihoiku.jp/>

保育施設をまちづくりの担い手とするための**新しい**制度設計



保育施設による公園活用と
公園マネジメントの可能性に向けた検討(横浜市)

保育施設が公園マネジメントの一端を担い、 それを評価する具体的な仕組み(地域貢献への評価)

～公募にあたって～

横浜市では、平成 25 年 4 月における待機児童ゼロを達成しましたが、その後も女性の就労意欲の高まり等によって保育所入所申込数は年々増加しています。

こうした中、27 年 9 月に国家戦略特区法が改正され、都市公園内への保育所等の設置が認められたことから、設置が困難な地域への新たな対応策として、本市でも公園の活用を検討し、反町公園内にある旧管理事務所を活用した保育所を整備することとしました。

公園内での保育所整備という趣旨を踏まえると、保育所も地域の人々や公園利用者と一緒に公園を共有し、活用する主体となります。

このため、開所後においても、地域の一員として良好な関係を築き、公園利用者をはじめ、地域の人々と交流し、運営をしていくことが一層期待されることから、このような視点も加味し、保育運営事業者を公募します。

《目次》

は従っていただきます。

- (14) 地域交流・地域支援について
公園内に設置し地域に開かれた保育所とするため、運営の中で次の事業を行っていただきます。(具体的内容は、選考後に協議)
- ア 施設・園庭等の地域開放
 - イ 地域子育て支援スペースの地域開放
 - ウ 園児と高齢者等との地域交流事業
 - エ 子育て相談・交流事業
※営利を目的とした活動はできません。材料費程度の実費徴収は可能です。
- (15) 保育室等の面積について
ア 保育室等、認可に当たって面積基準が定められている室の面積算定は、有効面積(壁内法、固定家具等は除く)によるものとします。
イ 補助金算定に関する面積算定は壁芯による算定とします(建築基準法に準拠)。
- (16) 留意事項
開所後、良好な保育所運営がなされない場合は、保育所運営費等の一部を減額する場合があります。
- (17) 公園内での保育所整備にあたっての考え方について
本件の整備については、国家戦略特区法改正における「都市公園内占用保育所等設置事業」により行っています。
公園内に保育所を設置する特殊性を鑑み、公園内の保育所ならではの地域交流・地域支援等を行う場所として、
ア 公園内に設置されていることを活かした地域交流・地域支援等についての具体的な検討例
イ 施設整備にあたって工夫する点(アの検討事項と連動した施設計画の工夫点等も含む)
ウ 公園で開催されるイベント等への協力体制
エ 開所後の運営上の取組
オ その他
について、申請書類別添様式に記入し、適宜資料等を添えて、申請書類と併せて提出してください。

募集要項・ 提出書類の 改定

1 (2) 近隣対応に関する計画

施設整備や開所後の運営にあたって、近隣対応は重要な要素です。近隣対応に関する計画や考え方を記載してください。

今回の施設整備にあたっての近隣への対応や配慮の考え方

① 選考後	
② 本設計立案時	
③ 工事着手前	

提案に対しての評価・ 確認項目

- ・周辺環境の理解
- ・周辺ステークホルダの把握
と活用への意識
- ・地縁組織との関係づくり
への意識
- ・具体的な取り組み内容と
施設計画との対応
- ・人事配置
- ・園児の安全安心等の
防災意識

等

単なる移動空間でない“道”空間の理解と再評価

【社会】

「遊戯道路」をもう一度 子どもに声を掛け 大人も打ち解け

ツイート B! 1 シェア 79 G+ 0

東京新聞

2017年5月5日 朝刊

車の通行を一時規制して、道を子どもの遊び場にする「遊戯（ゆうぎ）道路」。交通事故が激増した一九六〇年代に制度が始まり、東京都内では八百四十一カ所残る。公園整備などに伴い年々廃止されてきたが、地域の交流の空間として見直し、再活用を探る動きが出てきた。（柏崎智子、藤川大樹）

「この道路は子どもの遊び場です 車はご遠慮下さい」。住宅街の路上に立つ大きな看板の近くで、ランニングシャツ姿の子どもたちが自転車で遊ぶ。七一年八月の大田区報に載った遊戯道路の写真だ。

大田区では遊戯道路の制度がスタートすると熱心に活用し、二百カ所以上に設けた。しかし、二十年ほど前、一部を除いて廃止。当時の担当者は「公園の整備が進み、必要がなくなった」と振り返る。通行止め看板を管理する住民の高齢化も一因という。

警視庁によると、都内の遊戯道路のピークは八一年の千八百六十四カ所。年々減少し、この三十五年ほどで千カ所以上が消えた。さらに、書類上は残っていても、車を止める看板を出さないところも多い。

地域交流の場として活用を求めているのは、一般社団法人「TOKYO PLAY」（渋谷区）。二〇一四年から関東



大田区報1971年8月号に掲載された当時の遊戯道路の写真=同区提供

住宅地開発時からつながりの仕掛けを埋め込む

クラブハウス、農園やハーブシェアなど人間関係を育む仕組みも多数



ハーブシェア用に設けられたポスト脇の菜園スペース。全戸に用意されている

そのひとつが敷地内のクラブハウス「nococoハウス」や農園などを利用した、住民同士の交流を促進する仕組み。防災拠点も兼ねたnococoハウスでは月に2回ほど地域の子育て支援団体、戸塚区保育協力者グループなどと連携した子育て世代向けの交流イベントが予定されており、ベテランママによる無料の子育てサポートが受けられる。農園は区分利用できるタイプと、農園運営者が育ててくれて年2回の収穫体験ができるタイプの2種類が用意され、自分たちの暮らしに合わせて土いじりが楽しめる。この地域は都市農業の盛んなエリアでもあり、それを意識してのものという。

農という観点で面白いのは「ハーブシェア」という仕組み。これは各宅地の道路沿いに設けられた小さな菜園スペースを利用して、各世帯が好きなハーブを栽培。それを互いにお裾分けしあうというもの。

ハーブは繁殖力が強く、露地に植えると想像以上に繁茂してしまうが、限られた空間なら安心だ。自分で育てたハーブが我が家だけでなく、ご近所さんの食卓にも上るとなると、そこに自然と会話が生まれ、人間関係にも繋がることになるだろう。

さらに、地元の横浜薬科大学と連携、クラブハウスでハーブや漢方薬の講座が開かれるとも。記者発表時にはハーブの種類と利用法が記載されたカラフルなパンフレットのコピーが配布されたが、入居者にはその実物がプレゼントされる。

(株)リスト LIST-GARDEN nococo-town

http://www.listsothebysrealty.co.jp/news/cms/wordpress/wp-content/uploads/2017/05/20170523_LISTGARDENnococotown.pdf

「HOME'S PRESS」

http://www.homes.co.jp/cont/press/buy/buy_00667/

選択してもらうちとなる“入り口”をつくる

文京区の子育てを応援、文京区で最も子育てを楽しむ不動産屋さん。ファミリー向け賃貸・売買物件を仲介。

都会の子育てをもっと楽しく、一緒に！
文京子育て不動産

コンセプト0・1・2
CONCEPT

物件探しの流れ
FLOW

会社概要
ABOUT

行ってみる？
子育てファミリー
専門の不動産屋。

子育て不動産とは？

文京区の子育てを楽しむ家族のための、文京区で最も子育てを楽しんでいられる予約制の不動産屋さんです。

[詳しくはこちら](#)

物件の探し方

インターネットを最大限に活用することで、何度も不動産屋さんにご足運んだり、営業マンから電話が来ることもありません。

[詳しくはこちら](#)

ベビーカーで1分

文京区の、都営三田線「千石駅」より徒歩1分以内。ベビーカー歓迎のファミリーアプリー店舗です。

[詳しくはこちら](#)

お知らせ

RSS

2016年10月5日 **店舗情報**
新規開業・atelierこころね

2016年8月3日 **新着物件**
新築・根津駅徒歩3分で9万円～「ソフィア弥生202」

2016年8月3日 **新着物件**
新築・根津駅徒歩3分で9万円～「ソフィア弥生201」

店舗をコミュニティスペースとして開放して交流する

ー 文京区はファミリー層の方が多くということで、目標としては代々お客様とお付き合いしていくことだと思っておりますが、お客様と上手く関係を保つための秘訣などは？



高浜：質問への正しい答えなのかは判らないですが、当社は毎週月曜日の午後15時に店舗を「コミュニティスペース千石こじやり」として開放しているんです。そのため月曜日の午後は一切不動産の仕事はしません。その時はご近所の子育て中の親御さんが自由に出入りできる場所になっています。このコミュニティスペースを作った目的の1つは地域のため。私自身が3歳半と2ヶ月の子供がいるので、自分の子育てのための場所という意味も込めつつ、お客様同士を繋いでいきたいんです。

新しい街に引越してこられたばかりの時って、何となく不安があるじゃないですか。そういう不安を解消して、地域の方々と一緒に場所として使ってもらいたいと思って開放しています。

それともう1つの理由が、ここを「住みたい街」にしたいということ。文京区

文京子育て不動産 <http://fudousan.bunkyo-kosodate.net/>

主体的に関われば3人目も産みたいと思わせる居場所づくり

街の家族

カレンダー

12 2018 ・カレンダーの黄色く塗られた日10:00~15:00にオープンしています。300円以上のランチがあります。
 November ・大は要予約です。おまたはメールでお申込みください。◆は自由参加です。

日	月	火	水	木	金	土
						1
2	3	4 ★ママのための リラックスヨガ 10:30~ 定員5名 600円 ◆奈良町さんぽ 13:30~ ◆マージャンの日(午前)	5	6 ◆ソーイングの日 300円	7 ★ひよこの部屋 (一時期のみ) 10:00~11:30 800円	8
9	10	11 ◆男のまかないランチ 10:30~ 500円	12 ◆100円マーケット (子供服のフリマ) 10:30~14:00	13 光臨のリラックスタイム ◆1階 10:30~ 無料 ★2階 10:30~10:00円	14 ◆こどもクリスマス会 午前 10:30~ 無料 午後 13:00~20:00 定員15名	15 ◆1階コミュニティカフェ ~のんびりカフェ~ 11:00~14:00 (オープンデー)
16	17	18	19 ◆白黒と煮ぽつ 10:30~ 無料	20 ◆クリスマス忘年会 11:00~ 1000円 または 1席持ちのみ+500円	21 ◆織造ランチの日	22
23 天徳祭の日	24 徳田祭の日	25 ★日本の行事食・家庭食 10:30~ 500円	26 ◆酒造忘年会 13:30	27 ◆大掃除の日	28 12/28(金)~1/7(月)まで 冬休み よいお年を!	29
30	31					

「街の家族」って?

空き家になっていた一軒家を利用したコミュニティハウスです。赤ちゃんからお年寄りまで老若男女が集まって、まちの大家族のような雰囲気、料理・ハンドメイド・陶芸教室・読み聞かせ・パソコン教室など色々なイベント、子育て見守り合いなどを通して、大切な地域のいろいろな繋がりをふかめ、住みやすいまちにしたい。そんな思いで奈良町の住民有志らで結成された、「**どんな時もつながり合える街の家族**」運営委員会が、地域の空き家を生かし運営しています。

主な定例イベント

◆ママのためのリラックスヨガ◆
 第1火曜日 10:30~ 600円



- FACEBOOK -



あなたと他友達25人が「いいね!」しました

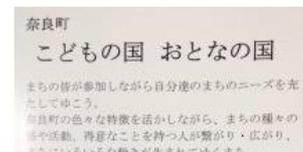
- 活動紹介 -



- 憩いの庭 -



- 活動6周年記念誌 -



乳幼児親子をまちに迎え入れるーこのまちで一緒に育っていこうよ

ホーム

記事 ▾

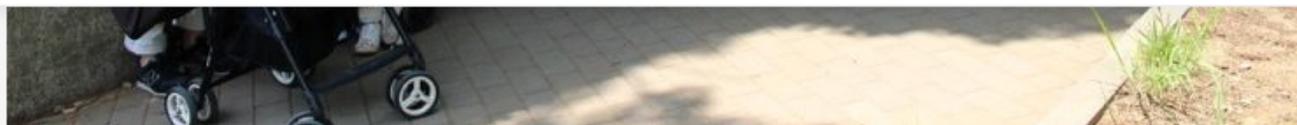
イベント

森ノオト
地域で見つけるエコの種

森ノオトとは

寄付する

お問い合わせ



はじまりました！「Welcomeあおば子育てツアー」

森ノオトライターと一緒に自分の暮らすまちの魅力発見、キッズフレンドリーな場所を巡っていくこのツアー。さあ、はじめりはあざみ野、たまプラーザからです。ドキドキのツアーレポートをどうぞ！

森ノオトはこの春から、青葉区で初めて子育てをするママとパパや、転入してきたばかりの方が、地域とぐっと仲良くなる企画をスタートさせました！

その名も「Welcomeあおば 子育てツアー」。

あざみ野・たまプラーザ・江田&市が尾・青葉台・寺家ふるさと村・藤が丘。

青葉区で子どもと一緒に楽しめるまちを6エリアに分け、地域を愛する森ノオトのライターと一緒に巡り、自分が住むまちをもっと好きになろう！ というツアーです。

青葉区役所とタイアップしておこなうこの「子育てツアー」は、横浜市でも初めての試みとのことです。

5月29日(月)にあざみ野編からスタート、5月30日(火)にはたまプラーザ編と続きました。

ツアーを仕切る宇都宮南海子さんは、元地域新聞の記者だった経験を生かした足取り軽いフットワークで、ツアーマスコットにもなりつつある生後半年の娘ちゃんを抱っこしながら、このツアーを盛り上げてくれています。



特集



welcomeあおば子育てツアー

<http://morinooto.jp/2017/06/15/aobatourreport/>

総評

論文・著作賞選考委員長
高橋勝

こども環境 論文・著作賞

今回の応募は、著作2編、論文7編の合計9編で、昨年度の応募総数11編に比べると、若干少ない。しかし、このところ10編前後の応募があるということは、学術面での活発な活動と成果が継続的に見られることを意味している。この9編の著作・論文を、7名の選考委員全員に6～7編ずつ査読してもらい、10点満点で採点した結果とその詳細なコメントを提出して頂いた。さらに選考委員会を開催し、厳正かつ率直な意見交換を行った上で、下記のように論文著作賞と奨励賞を選出した。

応募作品9編の研究テーマを見ると、①保育を地域づくりに積極的に関わらせる「まち保育」を推進する研究、②ユニバーサルデザインの視点から、子どもの遊び場作りを具体的に提案する研究、③東日本大震災から3年後の福島県のある地域における幼児の身体活動量を測定した研究など、実に多彩な研究テーマを見て取ることができる。子どもの成育環境をめぐる領域横断的な本学会の特長が如実に現れている。

その中で、とりわけ選考委員の注目を集めたのが、『まち保育のススメおさんぽ・多世代交流・地域交流・防災・まちづくり』で、各選考委員から共通して高い評価を受けた。よって、本書を論文著作賞に決定し、これに次いで高い評価を受けた著作『すべての子どもに遊びを—ユニバーサルデザインによる公園の遊び場作りガイド』を奨励賞として表彰することとした。



論文・著作賞

三輪律江(横浜市立大学)、尾木まり、田中稲子、稲垣景子、谷口新、松橋圭子、吉永真理、藤岡泰寛、棒田明子、米田佐知子

「まち保育のススメ」

本書は、建築環境工学、都市計画、環境デザイン、保育学、臨床心理学など、幅広い研究分野の研究者10名による共同研究の成果である。本書では、子育てを、親の「孤育て」に閉じ込めないために、子どもを地域の沢山の大人や多世代々とかかわる「社会関係資本」(ソーシャル・キャピタル)を広げる運動の輪の中でどう育てていくか、また、それによって地域自体も息を吹き返し、「まちが再生していく」ための具体的な方策

やアイデアが盛り沢山に提示されている。

緻密な学術的研究書でありながら、ことばは平易そのものであり、子どもが育つ環境のソフト面(対人関係が織りなす暮らしの居場所)とハード面(地理的空間)とが見事に融合して、子どもの視線で「まちが育つ」という実に斬新なまちづくりのプログラムが生き生きとリアルに提示されている。(高橋勝)



論文・著作賞

❖ 三輪律江 (横浜市立大学)、尾木まり、田中稲子、稲垣景子、谷口新、松橋圭子、吉永真理、藤岡泰寛、棒田明子、米田佐知子
『まち保育のススメ』

『まち保育』の着想のきっかけ

乳幼児期の子どもの成長にとって「まち」は欠かせない！生活に密着した地域社会の中で育まれるために必要な都市環境整備として、それらが構築されるべき具体的な単位圏（「乳幼児生活圏」）を解明し、その核となるであろう乳幼児期のこども達が集積する施設を中心に、こどもの育ちを中心に据えればこどもとともにまちも育っていくはずだ…そんな考えにいたった我々の理論と実践を、広く社会に発信し共有したい！この強い思いから、出版企画は始まりました。

多彩な執筆メンバー

本書は、保育・子育て支援のみならず、建築計画、都市計画、環境工学、防災、臨床心理学などの研究者や実践者がそれぞれの調査や実践を通じた専門的知見を持って執筆しています。乳幼児期の子どもが、地域に見守られながら育っていくためのまちづくりへの挑戦として、2012年から始めた処方箋的な手法を多分野で俯瞰して「まち保育」という概念として整理し、その意義や効果について多角的に議論しながら出版後は各自がそれぞれの分野でその思いを発信していきたいという意図で集まった多彩なメンバーです。

本書の特徴と構成

本書は全体で4章構成になっています。

第Ⅰ章「子どもを取り巻く環境の変化」では、まち保育の発想の前提となる様々な社会事情や施策をレビューし、乳幼児期の子どもが地域をフル活用して地域で育つための「まち保育」という考え方、まち保育を進める意義、そしてまち保育が包含する4つのステージを整理し、第Ⅱ章「まち保育をはじめよう」では、多彩な執筆者がまち保育を始めることの意義について、それぞれの専門的・実践的

立場で説いています。そして第Ⅲ章「まち保育実践」では、保育施設と共に実際に行ってきたまちあるきワークショップの実践・検証から準備、方法、体制、プロセス、その効果についてまとめ、最後の第Ⅳ章「まち保育が都市に果たす役割」では、まち保育の実践・検証からみえてきた、“子どもの生活を中心に据えたまちづくりを進めることが「まちが子どもを育てる」という社会的土壌を培いまちの担い手育成へとつながっていく”といった考え方について、これからの都市計画やまちづくり、乳幼児生活圏域と地域社会の再構築といった課題も踏まえ、述べています。

すなわち、調査研究のエビデンスと、まち保育のワークショップの実践・検証を踏まえた、学術書でありノウハウ本でもあるのです。

さいごに

今回の受賞を、執筆者一同心から感謝いたします。

本書は、単なる専門書のように難しくせず誰でも理解でき親しみやすいつくりをしたい、「やってみよう、やれるかも！」とすぐトライできそうなノウハウを込めたい、そして出版がゴールでなくスタートとなるように社会に発信しつづける媒体としたい、という思いで生み出したものです。本書が子どもの育ちと子育てを支えるさまざまな職種の、さまざまな立場の方々の実践の一助となり、子どもを中心とした社会への変革につながればと強く願っています。

